

| | | | |
|-------------|--|-------------|------------------|
| 授業科目名 | 異文化関係論 | 大学名 | 作新学院大学 |
| 科目区分 | VU連携講座 | 開講時期 | 後期 (9月20日～1月10日) |
| 学部・学科等 | 人間文化・心理コミュニケーション | 曜日 | 未定 |
| 必修・選択区分 | 選択 | 時限 (時間) | 未定 |
| 標準対象年次 | 2年生以上 | 授業形態 | 講義 |
| 単位数 | 2単位 | 授業会場 | 作新学院大学 |
| 担当教員名 | 玉城 要 | | |
| 電話番号 (代表者名) | 028-667-7111 | e-mail アドレス | |
| オフィスアワー | 授業終了時に面談の予約を取ってから、質問や相談に応じる。 | | |
| 授業の概要 | <p><授業の目標及びねらい> 「異文化関係」というと、自分の日常生活とは直接関係のない「どこか遠くの難しい話」と感じるかもしれません。私たちは何らかの人間集団に属して生きています。その集団の構成員には共通した価値観や活動の様式があり、それが「文化」として「モノ」と「ココロ」の両面に現れてきます。また、私たちは集団の構成員としてだけでなく個人としても様々な価値観を持ち、それに基づいて「文化」を生みだしているとも考えられます。広い意味で、私たちは日常的に「異文化関係」の中にあると言ってもいいでしょう。この授業では、異なる文化がどのように関係している (いた、いく) のかを、できるだけ「身近なところから始めて遠くに行きすぎない範囲で」考えます。学生みなさんに「異文化関係」を意識するいろなきっかけを提示するつもりなので、あえて統一テーマは設けません。</p> <p><前提とする知識・経験> このシラバスに書かれている事柄を読んで理解できるだけの日本語力があれば十分です。</p> <p><授業の具体的な進め方> 授業の進め方についての基本型は以下の通り。 ア：授業者 (玉城) は、時間割上の授業時間中にノートパソコンを携帯して教室に常駐し、インターネットへの接続を維持する。 イ：学生は、インターネットに接続し、WebClass 上の資料に基づき学習を進め、指定された期限までに「課題」を提出する。 ウ：ア、イの活動を以って、一回の授業における学習は「完了」とする。</p> <p><授業計画> 第1週 「異文化関係」とは「遠くの難しい話」なのだろうか 第2週 新渡戸稲造『武士道』とキリスト教 第3週 新渡戸稲造『武士道』と儒教・仏教・神道 第4週 現代人と「武士道」 第5週 内村鑑三『代表的日本人』その①西郷隆盛と上杉鷹山 第6週 内村鑑三『代表的日本人』その②二宮尊徳と中江藤樹 第7週 お茶をめぐる文化…陸羽『茶経』と岡倉天心『茶の本』 第8週 お茶をめぐる文化…中国・日本・英国・その他 第9週 中国の童蒙書『三字経』をめぐる…『本朝三字経』から『西洋三字経』へ 第10週 女訓書をめぐって…『列女伝』から『女三字経』、明治近代女子教育と中国の女子教育 第11週 渋沢栄一と『論語』…経済学と古典の接点 第12週 湯川秀樹と『老子』『荘子』…先端科学と古典の接点 第13週 沖縄あれこれ…中国から日本へ 第14週 沖縄あれこれ…日本からアメリカへ、そしてふたたび日本へ 第15週 沖縄あれこれ…「あの世」との関わり</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法> 教科書は用いない 毎回、</p> <p><成績評価法> 秀：毎回の授業時に示される内容確認課題をすべて期限内に提出し、その解答が正確でほぼ不備がなく、かつ自身の見解や、調べたことがらなどが追記されている場合。</p> | | |

優：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に8割以上提出されていて、その解答が正確でほぼ不備がない場合。

良：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に7割以上8割未満で提出されていて、その解答が正確でほぼ不備がない場合。

可：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に6割以上7割未満提出されていて、その解答が正確でほぼ不備がない場合。

不可：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に4割以上6割未満の提出しかなされていない場合。

無資格：上記、いずれにも該当しない場合。

<教員からのメッセージ>

普段の生活の中で意識的に「何で?」「どうして?」と問いかけてみてください。その問いかけから、思いもよらない「物事」のつながり、関係性が浮かび上がってくるかもしれません。